

厚生労働省がインクルーシブ保育実現に向けた運営基準見直しを検討 「保育園 × 児童発達支援事業所の併設施設」運営のパイオニア 社会福祉法人どろんこ会の先進事例を紹介

厚生労働省が2021年10月、11月に実施した「障害児通所支援の在り方に関する検討会」および「地域における保育所・保育士等の在り方検討会」において、保育所と児童発達支援事業所の保育士が共に保育と療育を行う施設を実現するための運営基準見直しの検討が議論となりました。

社会福祉法人どろんこ会（本社：東京都渋谷区 理事長：安永愛香）は、かねてより障害の有無で子育てを分けない「インクルーシブ保育」の実践のため、認可保育所と児童発達支援事業所が一体となった併設施設を首都圏を中心に8箇所運営してきました。この「どろんこ会の併設モデル」は先進事例として今、注目を集めつつあります。「乳幼児期からのインクルージョン」「障害児保育」といったテーマにご関心のあるメディアの方からのご取材を積極的にお受けしております。

厚生労働省 運営基準見直し検討の背景

保育所と児童発達支援事業所は行政上の管轄が異なり、設備運営基準が異なります。なぜその見直しが検討されているのかというと、以下の2点が主な背景にあります。

- ① インクルージョンや地域共生社会の実現・推進等の観点から、年少期より、障害の有無に関わらず、さまざまな遊びを通じて共に過ごし、互いに学ぶことが重要だとしているにもかかわらず、この基準が壁となっている現実があるため。

「障害児通所支援の在り方に関する検討会 報告書」令和3年10月20日 障害児通所支援の在り方に関する検討会 <https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000845350.pdf>

- ② 医療的ケア児、障害児、外国籍の児童など、子育てにおける多様な支援ニーズに応えるためにも、加速化する少子化を背景に定員割れしている保育所の設備や職員の有効活用など多機能化を検討する必要があるため。

「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会 取りまとめ（素案）」令和3年11月24日 地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会

<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000857763.pdf>

「どろんこ会の併設モデル」とは

2015年に東京都世田谷区に駒沢どろんこ保育園・発達支援つむぎ 駒沢ルームを開設。以来、埼玉、東京、千葉、神奈川、福島に展開。来年度以降も開設を予定しています。

ただ単に同じ建物内に施設を設けるのではなく、障害や心身の発達に気がかりのある子どもたちは、発達支援の保育士をはじめ、心理職、作業療法士、言語聴覚士などの専門職員の支援を受けながら、保育所に通う子どもたちと共に育ち合えるような活動を実践しています。



【本件および施設取材に関するお問い合わせ先】

どろんこ会グループ （東京都渋谷区渋谷 1-2-5 MFPR 渋谷ビル 13F）

広報部 松本 TEL：03-5766-8059 Email：koho@doronko.jp

(参考資料1)

どろんこ会の認可保育所と児童発達支援事業所の併設施設

開設年度	認可保育所名	児童発達支援事業所名	所在地
2015	駒沢どろんこ保育園	発達支援つむぎ 駒沢ルーム	東京都世田谷区
2016	ふじみ野どろんこ保育園	発達支援つむぎ ふじみ野ルーム	埼玉県ふじみ野市
2017	メリー★ポピンズ 桶川ルーム	発達支援つむぎ 桶川ルーム	埼玉県桶川市
2017	北千住どろんこ保育園	発達支援つむぎ 北千住ルーム	東京都足立区
2018	つつじヶ丘どろんこ保育園	発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム	東京都調布市
2018	宮下どろんこ保育園	発達支援つむぎ 宮下ルーム	千葉県君津市
2021	新羽どろんこ保育園	発達支援つむぎ 新羽ルーム	神奈川県横浜市港南区
2021	八山田どろんこ保育園	発達支援つむぎ 八山田ルーム	福島県郡山市

※宮下どろんこ保育園は、公立保育園を民営化する際に、児童発達支援事業所併設のインクルーシブモデルを提案して採択されました。

どろんこ会の児童発達支援事業所と児童発達支援センター

開設年度	認可保育所名	分類	所在地
2014	発達支援つむぎ 荻窪ルーム	児童発達支援事業所	東京都杉並区
2014	発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム	児童発達支援事業所	東京都武蔵野市
2014	発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム	児童発達支援事業所	東京都杉並区
2015	発達支援つむぎ 目白ルーム	児童発達支援事業所	東京都豊島区
2015	発達支援つむぎ 横浜西口ルーム	児童発達支援事業所	神奈川県横浜市
2016	発達支援つむぎ 横浜東口ルーム	児童発達支援事業所	神奈川県横浜市
2016	発達支援つむぎ 府中ルーム	児童発達支援事業所	東京都府中市
2016	発達支援つむぎ 池尻ルーム	児童発達支援事業所	東京都世田谷区
2017	発達支援つむぎ 調布ルーム	児童発達支援事業所	東京都調布市
2018	子ども発達支援センターつむぎ浦和美園	児童発達支援センター	埼玉県さいたま市

どろんこ会グループの発達支援施設の一覧はこちらからもご覧いただけます。

https://www.doronko.jp/facilities_type/type-020/#condition

弊法人のホームページにて実際の取り組みを以下でご覧いただけます。ぜひご一読ください。

■宮下どろんこ保育園と発達支援つむぎ 宮下ルームの記事

「全ての大人が全ての子どもを育てる保育園」へ。どろんこ会が目指すインクルーシブ保育「保育園＋発達支援つむぎ」の取り組み <https://www.doronko.jp/action/20180830a/>

■併設施設のブログ（一例）

・発達支援つむぎ 北千住ルーム「待ちに待ったすいか割り」

<https://www.doronko.jp/blog/tsumugi-kitasenu20210915a/>

・発達支援つむぎ 八山田ルーム「いのちをいただく」

<https://www.doronko.jp/blog/tsumugi-yatsuyamada20211028a/>

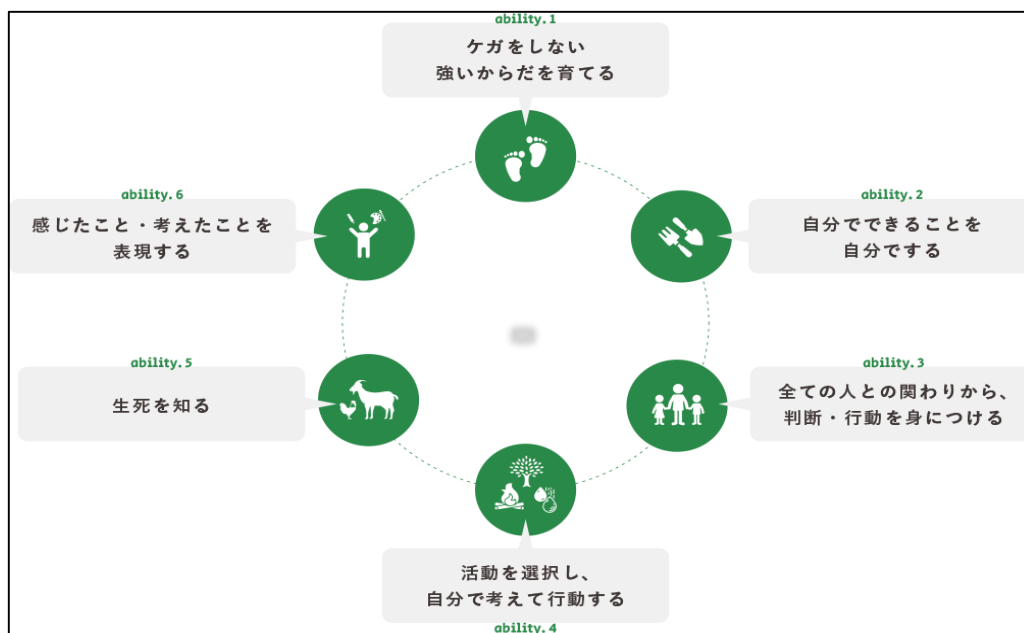
・発達支援つむぎ ふじみ野ルーム「つむぎふじみ野ルームの戸外活動」

<https://www.doronko.jp/blog/tsumugi-fujimino20211012a/>



(参考資料 2)

どろんこ会グループの子育てとは



どろんこ会グループの子育てでは、就学前教育の前段階から非認知能力を育むことに重きを置いています。そのために必要な6つの力を身につけることを目標としています。

1. ケガをしない強いからだを育てる

園では裸足で過ごし、長距離散歩や木登り、リズム体操、雑巾がけ、座禅を取り入れています。

2. 自分でできることを自分でする

子どもたちは畑仕事をし、自ら育てたものを調理する体験もします。給食のお米は、新潟県南魚沼市にある自社の田圃、植え付けから精米、発送まで自給自足で行っています。子どもたちは毎年田植え、稲刈りに参加します。

3. 全ての人との関わりから、判断・行動を身につける

0歳から5歳児が共に暮らす異年齢保育、そして障害の有無では分けないインクルーシブ保育を実践しています。地域の交流を大切に、商店街ツアーや青空保育を行っています。

4. 活動を選択し、自分で考えて行動する

火、水、土と関わることで、自然の事象に自ら気づき、考える力を養います。

5. 生死を知る

ヤギやニワトリなどの生き物の世話を通じ、命の重みを知ります。また、「命あるものを食している」ことを経験するための食育、命の大切さを学ぶ性教育も実施しています。

6. 感じたこと・考えたことを表現する

生活の中で自由に表現し創る環境を用意し、子どもが感じたこと、考えたことを表現できるよう保育計画を立てています。

どろんこ会グループ（社会福祉法人どろんこ会、株式会社ゴーエスト、株式会社日本福祉総合研究所、株式会社南魚沼生産組合）は全国約140箇所の認可保育園、事業所内保育所、児童発達支援センター、子育て支援施設等を運営。次代を担う子どもたちの「にんげん力」を育む体験型保育・自然保育を行う。幼児期の性教育や男性保育士比率の高さなど、各種メディアでもその取り組みが紹介されている。1998年設立。職員数約2000人。利用者数約7000人（2021年11月現在）

HP : <https://www.doronko.jp/> Facebook : <https://www.facebook.com/doronkokai/>

Twitter : @doronko_offical Instagram : @doronko_official/

Youtube : <https://youtu.be/d-SV7YuQmIM>